

「パーフェクト・ゲッタウェイ」

2009（平成21）年11月3

0日鑑賞<東宝試写室>

監督・脚本：デヴィッド・トゥーヒー

シドニー（新婚旅行でカウアイ島を訪れた新妻）／ミラ・ジョヴォヴィッチ

ニック（ハワイ出身の特殊部隊兵士）／ティモシー・オリファント

ジーナ（ニックの恋人で活発な南部女性）／キエレ・サンチェス

クリフ（シドニーの夫、脚本家）／スティーヴ・ザーン

クレオ（ケイルの恋人）／マーリー・シェルトン

ケイル（身体に刺青をしたミステリアスなヒッチハイカー）／クリス・ヘムズワース

2009年・アメリカ映画・97分

配給／プレシディオ

<犯人は誰だ！ゲーム好きのあなたには最適！>

本作の登場人物は3組のカップルで6名。舞台は地上の楽園ハワイ。新婚旅行のメッカだ。とはいってもハネムーンという設定がハッキリしているのは、ハネムーンとしてハワイで最も美しいとされる人里離れたビーチにバックバック旅行することを選んだクリフ（スティーヴ・ザーン）とシドニー（ミラ・ジョヴォヴィッチ）だけ。クリフたちの車に乗せかけたものの結局は乗せなかったクレオ（マーリー・シェルトン）とケイル（クリス・ヘムズワース）のカップルや現地地で仲良くなったニック（ティモシー・オリファント）とジーナ（キエレ・サンチェス）のカップルが新婚旅行かどうかはハッキリしない。

カップル同士が知り合う時はどうしても最初は男の個性が先に出てしまい、女の方は一歩下がってしまうから、冒頭に紹介される3組6人の男女の姿をみると、やはりまず男3人のキャラを先に理解することになる。とりわけ脚本家というクリフは慎重派のようだが、それに対して狩りをして食材を確保しているというニックはいかにも逞しく生命力が強そう。他方、身体に刺青をしたヒッチハイカーのケイルは無口で何となく不気味な雰囲気がある。3人の女たちは当面（？）そんな3人の男に従って行動しているようだが、そのうち本性が・・・。

楽しいはずのクリフとシドニーのハネムーンに激震が走ったのはオアフ島で新婚カップルが殺され、その犯人と思われる1組のカップルが自分たちのいるカウアイ島へ逃げてきたらしいというニュースを聞いた時。ひょっとしてあのカップルが・・・？クリフとシドニーがそう考えたのは当然だ。そこで慎重派のクリフはハネムーン中止も考えたようだが、楽しむことに貪欲なシドニーは前向きかつ楽観的に「大丈夫」と宣言。さあ犯人は誰だ？密室の中の犯人捜しにも通じる設定とした本作は、ゲーム好きのあなたには最適！

<こんな新婚旅行をどう思う？>

日本ではじめて新婚旅行を楽しんだのは坂本龍馬とお龍さんで、その行き先は薩摩というのが定説。ハネムーンとして最近人気があるのは沖縄や北海道そして小笠原諸島等の「島系」らしいが、昔からの定番は温泉地。それは、ハネムーンの目的が観光の他××だということを考えれば当然だが、クリフとシドニーはともすれば違うようだ。日本人の私たちには世界一美しい場所への憧れはわかるとしても、テント住まいのバックバック旅行はどう考えてもハネムーンには不向きと思えるが、今2人は幸せの絶頂。

もともと、クリフとシドニーが世界一美しいけれども徒歩で丸々2日間も歩かなければならないトレッキングコースをハネムーンとして選んだために、「犯人は誰だ！」という緊迫した状況に追い込まれたわけだが、さてあなたはこんな新婚旅行をどう思う？

<なぜミラ・ジョヴォヴィッチを起用？>

私は『フィフス・エレメント』（97年）を観て、彫りの深い顔とすばらしいスタイルを持ったミラ・ジョヴォヴィッチを一目で覚えてしまったが、その後の『ジャンヌ・ダルク』（99年）を観て、彼女はこの手のスケールの大きな映画のヒロインに最適な、文字どおりの大型女優と考えていた。ところが、その後私が観た『バイオハザード』（01年）（『シネマルーム2』235頁参照）、『バイオハザードⅡアポカリプス』（04年）（『シネマルーム6』300頁参照）、『バイオハザードⅢ』（07年）（『シネマルーム16』423頁参照）、『ウルトラヴァイオレット』（06年）（『シネマルーム11』329頁参照）では、『トゥームレイダー2』（03年）（『シネマルーム3』278頁参照）のアンジェリーナ・ジョリーの向こうを張るようなアクション女優の姿。この手のド派手なアクション映画も決して悪くはないが、私にはやはり本格的な大型ドラマのヒロインの方がベター。

そんなミラ・ジョヴォヴィッチが本作では、卑猥なセリフ（？）を口にしながらハネムーンを夫のクリフと共に奔放かつ貪欲に楽しもうとする新妻役で登場する。短パン姿になるとその肉感的な魅力も多少見えてくるが、バックバックを背負ったラフな格好は彼女の魅力をあまり引き出せていない。またミラ・ジョヴォヴィッチの場合は、新妻として夫に甘えたり明るく笑いまくる姿よりも、透明で魅力的な瞳で一点をじっと凝視する姿の方が魅力的だから、明るく楽しい新妻役はそもそも彼女には不向き？

私にはそう思えたが、「一筋縄ではいかない作風でカルト的人気を誇る」というデヴィッド・トゥーヒー監督は、なぜそんな女優ミラ・ジョヴォヴィッチを本作に起用したの？そこに注目！

<誰が犯人？そのヒントは？>

『シックス・センス』（99年）や『ハプニング』（08年）などのM・ナイト・シャマラン監督作品には「結末は絶対に明かさなさいで下さい」との警告がつきものだが、本作のプレスシートにも「この映画の結末は、誰にも喋らないでください」との「警告！」がある。したがって、犯人捜しのヒントになるような評論は一切タブー。しかし、本作の舞台は地上の楽園ハワイにある小島カウアイ島といういわば密室。そして、登場するカップルはクリフとシドニーをはじめとする計6人だから、犯人が1組のカップルだとすれば犯人を言い当てる確率は三分の一。

日本の名探偵明智小五郎や金田一耕助が、あるいは一世を風靡した刑事コロンボが教えてくれる犯人捜しの鉄則は、「最も犯人らしくないのが犯人」。私はそう理解している。もしそうだとすれば、あなたもそんな基準で犯人捜しをしてみれば、正解に辿りつくかも・・・。

2009（平

成21）年12月3日記